

ドミニク・チェン(dividual inc.)

レクチャーパフォーマンス

『共在言語をつくるために』

Dominique CHEN(dividual inc.)

Lecture Performance

“To build a Language of Compresence”

10.12 Sat – 13 Sun

愛知芸術文化センター アートスペースA

Art Space A, Aichi Arts Center

情の時代
あいち
トリエンナーレ
2019
AICHI TRIENNALE 2019:
Taming Y'Our Passion



Photo: Dominique Chen

このレクチャーパフォーマンスでは、わたしたちの作品『Last Words / TypeTrace』が生まれた背景、そして展示体験から見てきたこれからの展望についてお話ししたいと思います。作品の制作過程だけではなく、その背景にある学術研究のプロセスについても説明して、そして「あいちトリエンナーレ2019」で図らずとも可視化されてしまった「社会分断」を乗り越えるための方法についても、リアルタイムで考えていることを展開します。以下は今日のレクチャーに関するノートです。

『Last Words / TypeTrace』は「情の時代／Taming Y/Our Passion」という「あいちトリエンナーレ2019」のコンセプトに応答するかたちで新規制作されたインスタレーション作品です。TypeTraceはもともと、キーボードで書かれた文章の執筆プロセスを詳細に記録し、打ち間違いの添削や逡巡する間なども含めて再生するソフトウェアとして開発しました¹。わたしたちは今回、TypeTraceをモダンなWebブラウザで動作するように開発し、不特定多数の匿名ユーザーから10分以内に書かれた遺言(Last Words)、「10分遺言」を収集しました。本文を執筆している2019年9月25日現在、1,985件の10分遺言が集まっており、展示会場に設置した24台の壁面ディスプレイ、および机の上に配置した「キネティック・キーボード」(TypeTraceデータの再生と連動して自動的に打鍵されるキーボード)で常時再生しています。

本作は、現代の人々の死生観が表現されたテキストのアーカイブとして見る事ができるでしょう。親から子へ、子から親へ、兄弟姉妹で、友人や恋人へ、そして故人といった、書き手にとって大切な人へ向けて、自分の生の終わりを想像しながら、10分間という限られた時間で文章を綴っています。集まったテキストを読んでいると、それぞれの人が向き合ってきた現実像、そして愛でてきた価値観が凝縮されて表現されていることがわかります。ある鑑賞者の方は、この作品について「全員が自分の死を想定して書いているのに、この空間にいるとみんなが生きているという事実

の方に注意が向く」と語り、そのことによって「救われる気がする」とも言うていただきました。だから、他者の死に触れる機会が減少したといわれる今日の社会において、本作が他者と共に死生観を育てていく視点につながればと思います。

この作品はまた、情報技術がますます遍在し、さまざまな感情が瞬時に伝播される今日において、互いの深い感情や思考を共有できるか？という問いかけでもあります。それは、TypeTraceというシステムそのものの研究成果の集積の過程から生まれた問いです。

この10年で、その間に社会でさまざまな転換が起きました。情報技術環境に関わる最も大きな変化は、人々が用いる主な情報端末がPCからスマホへ移行したことが挙げられます。同時に、SNSが社会に浸潤し、万人が自身の考えや感覚を文字や写真というかたちで発信するようになりました。この変化自体は表現の民主化が進んだこととしてポジティブに捉えられる一方、他方ではインターネット上において扇情的な言説が瞬時に拡散され、フェイクニュースによって政治思想の分断はさらに歪められ、人々はそれぞれの信念のフィルターバブルに閉じ込められるようになったという批判も起こっています。

このような社会背景を踏まえて、わたしたちはTypeTraceを使ったオンライン・コミュニケーションの実験を続けてきました(チェンら, 2018)²。通常のチャットと、TypeTraceを用いたチャットを被験者のペアに行ってもらい、相手の執筆プロセスが可視化されることが互いの認知そしてコミュニケーションにどのような影響を与えるのかを調べています。定量的な分析を通しては、TypeTraceを用いたチャットにおいては、TypeTraceを使う時のほうが互いの感情表出が正(ポジティブ)な方向に振れて、さらに感情の強さも上がる傾向が確認されました。また、TypeTraceを使うことによって相互の存在感の認知が高まる事が分かりました。

同時に、わたしたちはデジタル・ウェルビーイング、つまり情報技術の使用が人の心理的充足に与える影響についても研究調査を行ってきました。そのなかで、家族の死を看取った体験がウェルビーイングを向上し

たという人の報告を受け、死生観や他者とのつながりという側面が日本文化においては特に重要視されるということがわかりました(チェン, 2019)³。親しい人の死という体験は、心理学の議論では通常ネガティブなもののみなされます。しかし、不可避かつ不可逆な別れの時を、当人と周囲の人々にとって望ましいかたちで迎えることによって、死者が生者のなかで生き続ける感覚が芽生える。他者の死を体験することから持続的な心理的充足がもたらされ得るという事実は、わたしたちに新しい視点をもたらしました。

以上の知見を踏まえて、わたしたちはTypeTraceの新作を構想する上で、人々が自分の「弱さ」を開示する文章の執筆プロセスを集めたいと考えに至りました。もともと、TypeTraceで文章を書き、公開することは、本質的に「弱さ」を開示する行為です。誤字や脱字を書き直したり、「言い淀み」のような間といった不完全さが記録され、可視化されてしまう恥ずかしさが伴います。その反面、読み手は、まるで会話において相手の発言を傾聴するように、書き手の「声」を聞き取る。匿名の状態、相手のことを知らなくても、

ドミニク・チェン (dividual inc.)

1981年生まれ
東京都拠点

フランス国籍。博士(学際情報学)、早稲田大学文学学術院・准教授。NPOコモンズフィア(クリエイティブ・コモンズ・ジャパン)理事、株式会社ディヴィデュアル共同創業者。2008年IPA未踏IT人材育成プログラム・スーパークリエイター認定。2016~2018年度グッドデザイン賞審査員。主な著書に『電脳のリギオ:ビッグデータ社会で心をつくる』(NTT出版)、『フリーカルチャーをつくるためのガイドブック:クリエイティブ・コモンズによる創造の循環』(フィルムアート社)等。訳書に『ウェルビーイングの設計論:人がよりよく生きるための情報技術』(BNN新社)等。

主な作品発表・受賞歴

- 2019 第22回ミラノトリエンナーレ「NukaBot」ミラノ(イタリア)
- 2016 「シンクル」Apple Best of AppStore 2016、東京
- 2015 「Picsee」Apple Best of AppStore 2015、東京
- 2013 「Creative Commands Compilation Data」第16回文化庁メディア芸術祭、東京、エンターテインメント部門審査委員会推薦作品
- 2007 《タイプトレース道~舞城王太郎之巻》「文学の触覚」東京都写真美術館、東京

TypeTraceで書かれた文章が再生されると、相手に語りかけられているように感じられるのです。

互いの弱さが開示されることで、書き手と読み手が共に在る感覚が増すのだとすれば、それは情報技術によって強化されてしまっている「わかりあえなさ」を超えて、他者と静かに、深く感情を交わし合うためのヒントとなるはず。だから本作に触れる鑑賞者の内にも、そのような別様の言語へのイメージが萌芽してほしい、と切に願っています。

1. 工藤 彰・岡田 猛・チェン ドミニク (2015) リアルタイムの創作情報に基づいた作家の執筆スタイルと推敲過程の分析, 認知科学, 22(4), pp. 573—590.
2. チェン ドミニク, 小島 大樹, 岡 瑞起, 池上 高志 (2018) 執筆記録情報を用いた行為主体性を持つコミュニケーション場のデザイン, JSAI大会論文集, 2018(0), 2D20S21a04-2D20S21a04
3. チェン ドミニク (2019) 「わたし」のウェルビーイングから、「わたしたち」のウェルビーイングへ, WIRED 日本版VOL.32, コンデナスト・ジャパン, URL: <https://wired.jp/2019/03/14/well-being-dominique-chen/>



Photo: Takashi Mochizuki

Dominique CHEN (dividual inc.)

Born 1981
Based in Tokyo, Japan
French nationality. Ph.D in Interdisciplinary Information, Waseda University of Faculty of Letters, Arts and Sciences,

Associate Professor. Director of NPO Common Sphere (Creative Commons Japan), co-founder of dividual inc., Ltd. 2008 IPA Unexplored IT Human Resources Development Program · Certified Super Creator. Good Design Award Jury in 2016-2018.

Selected Works & Awards

- 2019 22nd Milan Triennale, NukaBot, Milan, Italy
- 2016 syncle, Apple Best of AppStore, Tokyo, Japan
- 2015 Picsee, Apple Best of AppStore, Tokyo, Japan
- 2013 Creative Commands Compilation Data, 16th Japan Media Arts Festival, Entertainment Division, Jury Selections, Tokyo, Japan
- 2007 The Way of TypeTrace ~ Maijo Otarō Edition, Haptic Literature, Tokyo Photographic Art Museum, Tokyo, Japan

Concept, Direction, Production: Dominique Chen
Technical Manager: So Ozaki
Stage Manager: Makoto Kawaguchi
Video Documentation: Daisuke Yamashiro
Photography: Shun Sato
Curator : Chiaki Soma (Aichi Triennale 2019)
Production Manager : Sayuri Fujii (Aichi Triennale 2019)
Production Assistant: Kanako Yamasaki
Produced by Aichi Triennale 2019
Presented by Aichi Triennale Organizing Committee

構成・演出・製作: ドミニク・チェン
技術監督: 尾崎聡
舞台監督: 川口眞人
記録映像: 山城大督
記録写真: 佐藤暲
キュレーター: 相馬千秋 (あいちトリエンナーレ2019)
制作統括: 藤井さゆり (あいちトリエンナーレ2019)
制作アシスタント: 山崎佳奈子
製作 あいちトリエンナーレ2019
主催 あいちトリエンナーレ実行委員会

《Last Words / TypeTrace》(2019)
Artist: dividual inc. (Takumi Endo, Dominique Chen)
Technical Director: Shinya Matsumura (siro)
Editor: Yusuke Ujita (Kangaechu)
Curator: Meruro Washida (Aichi Triennale 2019)
Assistant Curator: Tsubasa Nishi, Kazushi Kuroda (Aichi Triennale 2019)

《Last Words / TypeTrace》(2019)
アーティスト: dividual inc. (遠藤拓己、ドミニク・チェン)
テクニカル・ディレクター: 松山真也 (siro)
エディター: 氏田雄介 (考え中)
キュレーター: 宮田めぐる (あいちトリエンナーレ2019)
アシスタント・キュレーター: 西翼、
黒田和士 (あいちトリエンナーレ2019)

Art Playground TALK Discussion Program "To Think How to Think"
Curator: Daiya Aida (Aichi Triennale 2019)
Coordinator: Atsuko Matsumura (Aichi Triennale 2019)
Moderator: Junko Takamori (Aichi Shukutoku University)

アート・プレイグラウンド はなす TALK ディスカッション・プログラム
「かんがえかたをかんがえる—作品からみる「情の時代」」
キュレーター: 会田大也 (あいちトリエンナーレ2019)
コーディネーター: 松村淳子 (あいちトリエンナーレ2019)
モデレーター: 高森順子 (愛知淑徳大学)

Special Thanks for the invaluable discussions to
- JST/RISTEX "Development and Dissemination of Information Technology
Guidelines for Promoting Japanese-style Wellbeing" Project:
Hideyuki Ando (Osaka University),
Junji Watanabe (NTT Communication Science Laboratory),
Kyoosuke Sakakura (Tokyo City University), Monsho Kamii (Byodoin Temple)
- ALife Lab: Hiroki Kojima (University of Tokyo),
Mizuki Oka (University of Tsukuba), Takashi Ikegami (University of Tokyo)
- Information Umwelt Workshop: Arina Tsukada (Whole Universe),
Asa Ito (Tokyo Institute of Technology), Ryo Hirano, Hisato Ogata (Takram),
Natsumi Wada (Keio University),
Aiko Murata (NTT Communication Science Laboratory), Yu Sakurai (Tissue),
Yuki Uchida (RE:PUBLIC), Ai Hasegawa, Daisuke Harashima (University of Tokyo),
Toru Urakawa (Qosmo), Ryo Yamashita (NTT), Kyoto Hashiguchi (NTT),
Minoru Hatanaka (NTT ICC), Shingo Kinoshita (NTT)

次の方々たちとの、かけがえのない議論に感謝いたします
・ JST/RISTEX「日本のWellbeingを促進する情報技術のためのガイドライ
ンの策定と普及」プロジェクト:
安藤英由樹 (大阪大学)、渡邊淳司 (NTTコミュニケーション科学基礎研究所)、
坂倉杏介 (東京都市大学)、神居文彰 (平等院)
・ ALife Lab: 小島大樹 (東京大学)、岡瑞起 (筑波大学)、池上高志 (東京大学)
・ 情報環世界研究会: 塚田有那 (Whole Universe)、
伊藤亜紗 (東京工業大学)、緒方壽人 (Takram)、ひらのりょう、
和田実実 (慶應大学)、村田藍子、桜井祐 (TISSUE Inc.)、
内田友紀 (RE:PUBLIC)、会田大也、長谷川愛、原島大輔 (東京大学)、
蒲川通 (Qosmo)、山下遼 (NTT)、橋口恭子 (NTT)、島中実 (NTT ICC)、
木下真吾 (NTT)

Oshima Toshio, Ibuki Ozawa, Noboru Yasuda (Shimogakari Hoshoryu),
Yoshimichi Iida (Tokoji Temple), Zenryu Kawakami (Myoshinji, Shunkon Temple),
Joji Inoue (Syodaiji Temple), Mari Urabe (Japan Memento Mori Association),
Seigo Matsuoka (Editorial Engineering Laboratory), Daiji Kimura (Kyoto University),
Alex Penn (University of Surrey), Hiromichi Hosoma (Waseda University),
Ken Suzuki (SmartNews), Yoshiki Ishikawa, Kotaro Watanabe, Hobara Shunji,
Shoko Iwane, Hiraku Ogura, Gary Chang

大島淑夫、小澤いぶき、安田登 (下掛宝生流)、飯田義道 (東江寺)、
川上全龍 (妙心寺春江院)、井上城治 (證大寺)、
占部まり (日本メメント・モリ協会)、松岡正剛 (編集工学研究所)、
木村大治 (京都大学)、アレックス・ベン (サリー大学)、
細馬宏通 (早稲田大学)、鈴木健 (スマートニュース)、石川善樹、渡邊康太郎、
穂原俊二、岩根彰子、小倉ヒラク、ゲイリー・チャン

「あいちトリエンナーレ2019」ハフォーミングアーツ AICHI TRIENNALE 2019 / Performing Arts

キュレーター Curator
相馬千秋 SOMA Chiaki
アシスタントキュレーター Assistant Curator
藤井さゆり FUJII Sayuri
コーディネーター Coordinator
清水翼、村松里実 SHIMIZU Tsubasa, MURAMATSU Satomi
テクニカル・ディレクター Technical Director
尾崎聡 OZAKI So

票券 Ticket Administration
山崎佳奈子 YAMASAKI Kanako

翻訳 Translation
Art Translators Collective
(相磯展子、ベン・ケーガン、リアン・キャンライト)

Art Translators Collective
(AISO Nobuko, Ben CAGAN, Lillian CANRIGHT)

編集・執筆 Editor/Writer
鈴木理映子 SUZUKI Rieko

編集: 鈴木理映子
デザイン: コバヤシタケシ (SURFACE)
印刷・製本: 藤原印刷

あいちトリエンナーレ2019 情の時代 2019年8月1日 [木] - 10月14日 [月・祝]

主な会場: 愛知芸術文化センター、名古屋美術館、名古屋市内のまちなか (四間道・円頓寺)
豊田市 (豊田市美術館及び豊田市駅周辺)
芸術監督: 津田大介 (ジャーナリスト/メディア・アクティビスト)

主 催: あいちトリエンナーレ実行委員会
助 成: 損保ジャパン日本興亜「SOMPO アート・ファンド」(企業メセナ協議会 2021 Arts Fund)
公益社団法人企業メセナ協議会 2021 芸術・文化による社会創造ファンド
一般財団法人地域創造

AICHI TRIENNALE 2019: Taming Y/Our Passion

August 1 (Thursday) to October 14 (Monday, public holiday) , 2019

Main Venues: Aichi Arts Center, Nagoya City Art Museum, Nagoya City (Shikemichi and Endoji)
Toyota City (Toyota Municipal Museum of Art and other venues in the vicinity of
Toyotashi station)

Artistic Director: TSUDA Daisuke (Journalist / Media Activist)
Organizer: Aichi Triennale Organizing Committee
Supported by Sampo Japan Nipponkoa Insurance Inc. [SOMPO ART FUND]
(Association for Corporate Support of the Arts, Japan:2021 Fund for Creation
of Society by the Arts and Culture), Association for Corporate Support of the
Arts, Japan: 2021 Fund for Creation of Society by the Arts and Culture, Japan
Foundation for Regional Art-Activities

